

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100102		
法人名	(株)快GO TOKAI		
事業所名	グループホーム 住ま居る		
所在地	岐阜県多治見市笠原町2455-42		
自己評価作成日	平成24年11月15日	評価結果市町村受理日	平成25年 1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2191100102-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成24年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いつまでも住ま居るで暮らせる」という観点から、ハード面では全館バリアフリー、オール電化となっており、重介護に対応できるようリフト浴が設置されている。またソフト面では、専従の看護師が主治医、薬剤師等の医療従事者と密に連携し、ターミナルケアを視野に入れ、日々の健康管理など質の高いケアがなされている。介護職員の研修体制も充実しており、ホームでの勉強会、外部での研修の機会を多く確保している。この事により、質の高いサービスが提供でき、利用者様、ご家族が安心して過ごせる様積極的に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営者は、福祉に経験豊かな看護師であり、事業所全体にその経験を活かし、建物、内装、部屋の設計などにも、利用者が快適に過ごすことができるよう工夫している。特に、専従の看護師の設置、医療機関との連携も充実し、利用者と家族の安心につなげている。職員の年齢層も幅広く、質の高い人材を求め育成し、先輩を重んじ、安全かつ高水準の介護を提供し、笑顔で安心して暮らせるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が共有できるように、事務所に掲示し、出勤時に各自確認し業務に当たるように、指導している。	「利用者の心身状況、生活歴、病歴等を把握し共同生活においても人権を尊重した支援等」を理念とし、職員は、笑顔で利用者寄り添っている。丁寧な声をかけ合い、毎朝確認し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への参加、地域の祭りへの参加、地域幼稚園、地域他施設との定期的な交流を行っている。	自治会に加入し、地域のゴミ拾いや公民館交流に参加し、幼稚園との交流も定期的に行っている。近隣のコンビニエンスストアとは、災害時の協力体制がある。事業所玄関に「介護相談の気軽どうぞ」の看板を掲げ、地域の相談を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの介護相談を受け付け、適切な事業所、医療機関を紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じ、関係者、市職員、包括支援センターの職員等地域にも参加を呼び掛け、意見を伺い事業所の質の向上に生かしている。	3ヶ月に1回運営推進会議を開催し、事業取り組み内容、課題を話し合い、利用者の見守り協力者への参加表明、また、住民の介護相談窓口の継続依頼など意見交換を行い、サービスにつなげている。	運営推進会議の開催を2ヶ月に1回開催することが望ましい。また、地域団体や住民などに委員を依頼し、増員することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度上の相談、意見交換等は密に出来ている。又管理者は、介護認定審査会委員、多治見市ケアマネジャー協議会役員を行っているためその場を通じて、意思の疎通が図れている。	代表は行政の審議会委員などを受け、現場の意見を具申し、日頃は困難事例、法改正の解釈など相談指導を受けている。行政主催の研修会に参加し利用者サービスに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、職員のミーティング等でも話し合っている。	「身体拘束ゼロの手引き」を基に職員研修を重ね、拘束なしに向けたケアを話し合い、実践につなげている。言葉を遮ったり、気持ちを押しさえ、抑圧感などを招いていないかなどを気遣い、支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加、ホーム勉強会の開催を通じ全職員が理解している。又、管理職は注意を払い防止に努めている。		

岐阜県 グループホーム住ま居る

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止の徹底と同様、研修会への参加、ホーム勉強会を通じ把握に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に密に文章で説明し、理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関、リビングには、意見箱を設置し意見が出やすいようにしている。又運営推進会議、家族会を通じ意見を伺っている。	家族会があり、運営推進会議に多くの家族が参加し意見交換をしている。身体を動かすことが好きなためできることを手伝わせてほしい、部屋の汚れが目立つ、散歩の回数を増やすなどの要望があり、積極的に取り組みを進めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、責任者会議、全体会議を開催し、職員の意見が反映されるように務めている。	利用者との日常的な関わりのなかでの職員の気づきを、代表や管理者は聞く機会を多く持ち、排泄方法の改善点、個別ケアの取り組み、職員の勤務体制への要望など、希望・提案を改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との意思疎通を図り、風通しの良い職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の研修、外部での研修の参加、毎月の勉強会を開催し職員のレベルアップ。質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所への見学、イベント等への参加を通じネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のホームの見学、ご家族、担当ケアマネからの情報収集を行い本人の嗜好、趣味等を把握するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望、不安点等を聴きながら、家族の思いを受け止め、信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望等を把握した上で、入所が本人、家族にとって望ましいか等、担当ケアマネ等法人外部とも連携し、必要に応じて他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を人生の先輩と位置付け、職員の立場をわきまえた上で、よりよい関係づくりができる様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の役割、ホームの役割を把握し家族との関係が途切れないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前のなじみの場所などに出向く事等は少ないが、ご家族以外の面会者については、ご家族と相談しながら行っている。	知人、友人の訪問が多く、職員は呈茶でもてなし、ゆっくり会話のできる雰囲気づくりを行っている。馴染みの店で買い物、公民館、敬老会などへ外出することで、染みの人との関係を継続する支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他人同士が共に生活しているという事を理解した上で、利用者同士がよりよい関係が築けるよう、職員が間に入り援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅に戻られた利用者様が気軽に来所できるような環境を整えている。家族の相談も受けている。また他界された利用者様のご家族が時折来所される事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関係者からの情報収集を行い入所前の暮らし方等の把握に努めている。また日々の言動、行動を観察し全体会議などを通じ情報の共有に努めている。	契約時に家族から趣味など情報を得ている、日常の行動、新聞購読時、テレビ番組、利用者同士の会話など様々な場面で個人を知ることによって意向を把握している。職員会議で意見交換をし共有につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に所定の記録用紙に記入して頂き、入所前の暮らしなど、ご本人の歴史の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADL等のアセスメントを行い、有する力、心身状態の把握に努め、介護記録に記載し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族はもとより、主治医、看護師、介護職員がそれぞれの視点から意見を出し合い、介護計画の作成に関わっている。	日々の介護記録を基に、職員、家族、利用者の意見を取り入れ、サービス担当者会議を開いている。医師、専門職の意見を参考に介護計画を作成している。状態に合わせて柔軟に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践など個別の介護記録に記載し共有出来ている。また申し送りノート等を活用し情報の共有に努めている。また日々のケア、介護計画に反されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	退院後のリハビリについては、ホーム内では不足と考え、医療保険を利用し協力医療機関で専門的なリハビリを行っている。又在宅復帰された利用者様に関し、法人全体でも支える事のできる仕組みを整えている。		

岐阜県 グループホーム住ま居る

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域と関わりが持てる様、定期的なボランティアの協力や、近隣の幼稚園や地域の他施設との交流、地域の行事に参加し交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の主治医の往診が月に2回あり。その他に必要な応じ適切な対応を行っている。又入所前のかかりつけ医への受診等の希望があった場合は柔軟に対応している。	契約時に事業所の方針を説明し、利用者・家族の理解を得ている。ほぼ全員が協力医を希望し、月2回往診がある。他の医療機関への受診は、原則家族が対応することになっているが、希望により事業所が代行するなど柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護師が日々健康管理をし必要に応じて介護職員へ対応の仕方など説明し適切に対処している。また介護職員からの情報提供も適切に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際の対応、スムーズに対応できるように、入院先の医療機関と連携、情報の共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には、重度化に関する指針など密に説明を行い同意を受けている。また本人、家族の方針を伺っている。また関係施設への紹介も行っている。	重度化や終末期の対応について、契約時に事業所の方針を説明し、「重度化対応に関する指針、看取り介護」の同意書を交わしている。家族、利用者の希望を受け入れ、早い時期に検討し、柔軟に対応している。医療機関との連携も整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な急変時に関する勉強会、地域消防署による研修を受講し急変時などに備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防署による避難訓練を実施。災害対策として、地域住民、地域企業への協力をお願いしている。	年2回、消防署の協力のもと、消火器の利用方法、避難訓練、連絡網の確認等の訓練を実施している。地元企業、住民との協力関係も整い、備蓄についても近隣の商店、事業所と2ヶ所で保管している。	夜間を想定した火災訓練、また、昼夜の地震、水害についても、利用者の安全確保に向けた手順など、検討することに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の尊厳を守り、その人らしく過ごせるよう対応している。個室に職員が入室する際は、本人の許可を得るよう指導している。	利用者の尊厳と権利を守る援助を心掛け、一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保を徹底している。職員は、優しく言葉をかけ、否定的な態度をとらないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定できるよう、利用者自身が選択できるような声かけを行っている。利用者専用の意見箱をリビングに設置してある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、入床時間等特に決まっていなく、レクリエーションの参加なども同様であり本人が選択できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族にも協力していただき、外出着も用意していただいている。また理美容に関しても、なじみの店に通って見える方もみえる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューは、利用者専用の意見箱を設置し意見を取り入れながら行っている。配膳の準備など担当を決め行っている。	庭で作った野菜を食材に利用し、利用者から調理方法、メニューを提案してもらっている。職員も同じ食事を摂り、味付けなどの利用者の好み、次の料理の提案など、会話の弾む食事である。準備や後片付けは、ほとんど利用者が担当している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量に関しては、摂取量を記録し把握している。また、食べやすい形状に調理する等の工夫をしている。水分摂取に関してもいつでも水分を摂れるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の能力に応じた口腔ケアを実施し、口腔内が清潔に保てるように支援している。また必要時歯科の受診を支援している。		

岐阜県 グループホーム住ま居る

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、個別対応している。オムツ使用の方でも日中トイレで排泄できるよう援助している。	排泄チェック表で、利用者の排泄パターンを把握している。利用者の状態に合わせ、夜はポータブルトイレを利用する場合もあるが、さり気ない誘導で、日夜できる限りトイレへ誘導し、自立に向け支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便に関しては、記録に記載し看護師が把握している。便秘予防に十分な水分摂取、適度な運動の機会が確保できるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時は、プライバシーの配慮はもちろん、入浴日ではなくても本人の希望があった時には入浴していただけるように取り組んでいる。	入浴は原則週3回であり、重度者用のリフト浴を設置し、利用者の状態に合わせ対応している。ゆっくり入浴を楽しめるよう配慮し、個浴、足浴、清拭など希望に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣、身体状況など考慮し心地よく安眠できるよう取り組んでいる。日中、夜間ともに入床に関しては利用者の意思を尊重しているが、生活のリズムが崩れないよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者個々の内服薬が把握できるよう各利用者記録におくすり手帳、説明書が保管されている。看護師が利用者の状態を把握し、主治医、薬剤師と密に連携し取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割については、ケアプランに上げ、本人とも話し合いながら取り組んでいる。楽しみについてはどんな事がやりたいか等、利用者の意見を取り入れて行っている。また地域ボランティアの協力も多くある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会が多く持てるよう、天候のよい日は散歩に出かけたり、喫茶店に出かけたり、個人の買い物の支援、地域行事への参加、ご家族との外出の呼びかけなどを行っている。	日常的に近隣を散歩したり、近くの公民館に出かけている。希望者で喫茶店、商店にでかけ、地域の行事にも参加している。買い物ツアーを月に2回計画し、利用者に思いのまま買い物を楽しんでもらえるよう支援している。	

岐阜県 グループホーム住ま居る

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	運営推進会議でも「お金をもつ大切さ」を話し合い。本人の能力に合った支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった場合は、家族に連絡が取れるよう支援している。なじみの方から手紙が届く事もあり、返事が送れるような支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常の整理整頓、清潔を心掛けている。また空調管理などのこまめに行い快適に過ごせるようとり組んでいる。	空調設備が整い、共用空間が広く、食卓テーブル、ソファがゆったりと置いている。対面式キッチンにはメニューが掲示しており、食事の準備時に香りや音を感じることができる。季節毎に利用者の作品を飾り、季節感を取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間が快適であるよう家具などにもこだわっている。また外にはウッドデッキが有り独りや、気のあった仲間とほっとできる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具等を持ち込んでいる方も多い。本人が心地よく過ごせるよう取り組んでいる。	表札は、自分の部屋が分かりやすいように特徴付けている。電動ベッド、クローゼットを設置し、空間を広く取り、家族の写真や思い出の手作り作品など、馴染みの物を活かし、安心して過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を把握し、利用者ができる限り安全な自立した生活が送れるよう工夫している。		